自昭和六年

至

染織祭記録

附 染織講社趣意書 同規約 同施行細則

同紋章縁起書

行列衣裳目録

行列繪畫

時代行列解説

別封筒入

Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© Kodak, 2007 TM Kodak

染織講社趣意書及規約

染織講社趣意書

染織ニ關スル技術ハ世界各國ヲ通シ其關係極メテ古ク我國ニ於テモ原始時代ニ既ニ其ノ道ノ開ケタリシハ想像ニ難カラサル所ニシテ其後歷世文化ノ影響ト洗練陶冶トヲ經テ漸次發達ノ域ニ進ミ殊ニ近代科學ノ進歩ハ機械ノ應用ヲ促進シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ染織業ハ今ヤ我國産業ノ概位ヲ占メ其消長ハ國家及國民經濟上極メテ重大ナル關係ヲ有スルニ至リタルハ多言ヲ要セサル所ナリ抑々斯業ノ濫觴ハ遠ク神代ノ昔ニ發セルハ明カニシテ吾人ハ始メテ染織ノ道ヲ拓キ之ヲ後世萬民ニ傳ヘ給ヒシ染織諸祖神ノ神恩ノ宏大無邊ナルヲ思ハサルヲ得ス殊ニ本府ニ於ケル産業ハ染織及之レニ關聯セルモノ其ノ標軸ヲ占メ直接及間接之ニ依リテ生活スル者他地方ニ比シ實ニ多大ニシテ前記諸神ノ神恩ニ浴スルノ程度亦一層深シト謂ハサルヘカラス

然ルニ由來我京都ニハ四季ヲ通シ各神社ノ盛儀ナル祭事行ハレツヽアリト雖モ未タ府民ニ最モ關係深キ染織祖神ニ感謝ノ意ヲ捧クヘキ祭祀ニ乏シカリシハ識ニ識者ノ深ク遺憾トセシ所ナリ依ツテ茲ニ有志相諮リ左記規約ニ依リ染織講社ノ設立ヲ發起シ毎年陽春ノ季ヲトシ染織祭ヲ行ヒ以テ我國染織諸祖神ノ御神德ヲ宣揚シ其ノ洪恩ノ萬分ノ一ニ報ユル所アラムトス

冀クハ大方ノ諸賢奮ツテ本講社ノ趣意ニ翼贊加盟セラレ以テ其ノ所期ノ目的ヲ速成セシムル爲協議アランコトヲ

祭神

天棚機姫神　天羽槌雄神
天日鷲神　長白羽神
津咋見神　保食神
栲幡千々姫命　呉織女（合祭）
漢織女（合祭）

染織講社規約

（昭和六年二月十六日設立）

第一條　本講社ハ染織講社ト稱ス

第二條　本講社ハ染織祖神ノ神德ヲ宣揚シ敬神尊祖ノ美風ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第三條　本講社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、染織祭ノ擧行

二、前項ト關聯スル施設

第四條　本講社ハ本部ヲ平安神宮内ニ置ク

第五條　本講社ハ第二條ノ目的ヲ翼贊スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條　本講社員ヲ左ノ三部ニ分ツ

第一部　染織業者ノ團体

第二部　染織ト關係アル團体

第三部　特ニ本講社ノ事業ヲ翼贊スル者及其ノ團体

第七條　本講社ニ加盟セントスル者ハ其ノ氏名（團体ニ在リテハ代表者ノ氏名及團体員數）ヲ記載シタル書面ニ依リ其ノ旨本會ニ申込ムヘシ前項ノ申込ヲ受ケタルトキハ會長ハ評議員會ノ決議ヲ經テ其ノ諾否ヲ定ム

第八條　本講社ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名
副會長　一名
評議員　若干名
理事長　一名
常任理事　六名
理事　若干名

第九條　會長ハ京都市長、副會長ハ京都商工會議所會頭トス

評議員及理事ハ會長之ヲ委嘱ス

理事長ハ京都市助役、常任理事ハ京都染物同業組合代表者、西陣織物同業組合代表者、日本染織物見本市協會代表者、京都府商工水産課長、京都市産業課長ヲ以テ之ニ充テ會長委嘱ス

第十條　本講社ニ名譽會長及顧問ヲ置クコトヲ得

名譽會長ハ京都府知事ヲ推戴シ顧問ハ評議員會ノ承認ヲ得テ會長之ヲ嘱託ス

第十一條　會長ハ本講社ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ講社ノ機務ニ參與ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ講務ヲ處理ス

第十二條　役員ハ凡テ名譽職トス

第十三條　本講社ノ會議ハ評議員會及理事會ノ二種トス

評議員會ハ毎年一月會長之ヲ招集ス、但シ臨時必要アルトキハ其ノ都度之ヲ招集ス

理事會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ招集ス

第十四條　評議員會及理事會ノ議決事項左ノ如シ

評議員會

一、規約ノ變更

二、豫算ノ議決及決算ノ承認

三、講務ニ關スル報告ノ承認

理事會

一、事業ノ執行ニ關スル事項

二、評議員會ニ附議スベキ事項

三、會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十五條　本講社ノ經費ハ各講社員ノ分擔醵出シタルモノ及寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　本講社ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第十七條　本規約ノ施行ニ必要ナル細則ハ評議員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

染織講社紋章縁起書

神代第四代の神天下照姫命（アメノシタテル）と五代の神木花咲耶姫命（コノハナサクヤ）とお打連れ立つて山野を逍遙して居られた時何處とも知れず二神の前に一羽の白鳥が草の葉を銜（クハ）えて飛び來り蹠（ツマヅキ）足を腹に示し苦痛の狀を訴へた二神は注視し多分腹痛もやと考へ白鳥の口なる草を親ら撚み紋つて鳥の口に含ませ給ふた而るに其の葉草の汁は白鳥の羽に滴り瑠璃色となつた、程なく白鳥の腹痛も鎭まり二神を禮拜して飛び去りぬ、其の後二神は彼の草の汁の瑠璃色になりし奇端を不思議に思召してその草を集め汁を紋つて白衣を染め給ふた所非常に美しい青色を得た彼の白鳥こそは天神の化身であつて此の法を授けん爲の奇端であつた事判明し二神天を仰いで拜し給ふ、此の傳說により鳥に葉を銜（クハ）えさした物である

外圓のは天照大神即ち太陽の象徵である、大神は日向の高千穗の宮に天降り給ふた時各種の神達を伴わせられた中で天日鷲命（アメノヒワシ）、津咋日命（ツクヒミノ）の二神は穀（カフ）ヲ播種して木綿を作らせ長白羽命（ナガシロハ）は麻布を織らせ天羽槌（アメノハヅチ）の命は文布（シトリ）を織らせる部曲の首長として降臨されたのであります即ち之等の大御寶は天照大神に源を發し神々の力に依つて今日の織維工業の發達を招いたのである、故に大神は此業の父であり母であるとも言い得られるのである

染織講社

祭事記録

昭和六年

染織祭式次第

第一日ノ儀　四月十一日

午後一時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修　祓
次　降　神　管掫　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　春庭樂奉奏
次　諸員退下
　　午後九時昇神

第二日ノ儀　四月十二日

午前九時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修　祓
次　降　神　管掫　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
　　午後七時昇神

染織祭行列順序（昭和六年四月十二日）

一、午後一時迄ニ京都府廳前ニ集合

一、道　筋――午後一時京都府廳前出發丸太町通ヘ丸太町通ヲ烏丸ヘ烏丸通ヲ四條ヘ四條通ヲ祇園石段下ヘ東山線ヲ二條通ヘ二條通ヲ東ヘ公會堂前ヨリ祭場ニ

一、行　列

第一列

一番　祭事委員自動車
二番　幣物自動車
三番　齋員自動車
四番　祭主（京都市長）自動車
五番　京都府知事自動車
六番　京都商工會議所會頭自動車
七番　染織講社理事長自動車
八番　染織講社常任理事自動車

第二列

市立第二工業學校裝飾自動車　二臺
次ニ同校色染科機織科學生（徒歩）

一番　西陣織物商組合　屋臺二臺
二番　（牛革商組合／京都刺繍同業組合）　屋臺二臺
三番　京都染物同業組合　屋臺二臺
四番　西陣織物同業組合　屋臺二臺
五番　（京都縮緬商組合／京都濱縮緬商組合／京都生絹同盟會／丹後縮緬同業組合）　屋臺三臺
六番　京都小賣商聯盟　屋臺二臺
七番　（京都染呉服商組合／關東織物商組合（盛奨會））　屋臺三臺／屋臺七臺
八番　京染呉服悉皆同業組合　屋臺二臺
九番　京都木綿商組合　屋臺一臺
十番　白川水洗團　屋臺一臺

第三列

京都市料理飲食業聯合組合　屋臺二臺
伏見協賛團自動車　二臺
日活、松竹、帝キネ男女優乘車自動車　五臺
日本織物新聞社　屋臺一臺
京都市消防團　屋臺一臺
中外染織新聞社　屋臺一臺
其ノ他

午後一時半ヨリ二時迄ノ間ニ於テ七遊廓ノ藝妓連七百三十五名揃ヒノ日傘、衣裳ニテ行列參拜。

第二部行列説明

西陣織物同業組合

イ、屋台數　二台

ロ、屋台ノ構造

一台ノ屋台ハ唐織衣裳ノ漢羽、呉羽（女二名）登乘シ五色ノ糸ヲ以テ装飾セル機台ヲ配シ見送リハ斜子地天平模様（佛國大使館裝飾用ニシテ織物館貴重品）周圍ハ各種織物ヲ以テ裝飾ス一台ノ屋台ハ青竹ヲ以テ組立テ各種織物ヲ以テ裝飾シ雛子十二名登乘ス

ハ、組合員ノ服裝

大名柄特製御召羽織金襴ノ西陣マーク紋付ニ別織絹袴ヲ着シ菅

一文字傘ヲ冠リ特製扇子ヲ持チ天鵞絨織ノ草履ヲ履ク

ニ、參加人員　百八十二名

ホ、其ノ他屋台ノ裝飾用織物ハ西陣ニ於テ生産セラルヽ各種織物物ヲ網羅シ服裝一切ハ西陣別織モノヽミヲ使用ス

西陣織物商組合

イ、屋台數　二名

ロ、屋台ノ構造

一台ハ山車（だし）衣裳人形ニテ裝飾ヲナシ一名ハ唯一入

ハ、服　裝

紫色繻子羽織羽二重元祿染縞笠朱鞘ノ刀

ニ、參加人員　六十名

京都染物同業組合

イ、屋台數　二台

ロ、屋台ノ構造

裝飾柳櫻五色雛入

ハ、組合員ノ服裝

羽二重翁格子模様上ニ袖ナシ羽織冠物元祿模様

ニ、參加人員　五百名

京都半襟商組合

イ、屋台數　二台

ロ、屋台ノ構造

（先頭）神殿造奏樂（殿）屋台造　祇園囃

染織講社

ハ、組合ノ服裝

變リ色揃ヘノ羽織袴　宗十郎頭布

ニ、參加人員　八十五名外ニ監督六名

ホ、其ノ他組合標織長帆　二本

京都縮緬商組合　（京都縮緬商組合　生絹同盟會　濱縮緬商組合）

イ、屋台數　三台

ロ、屋台ノ構造

（先頭）囃（中）漢羽、吳羽ニ扮裝シタル女優登乘（殿）囃

ハ、組合員ノ服裝

羽二重駁斗目衣服ニ廓上下

ニ、參加人員　百名

京染呉服悉皆同業組合

イ、屋台數　二台

ロ、屋台ノ構造

一台ハ御座船　日活女優扮裝　棚機女神ノ像

一台ハ祇園囃（十六名ノ囃方）

御座船ハ優雅ナル裝飾ヲ施シ雅樂ヲ奏セリ

ハ、組合員ノ服裝

參加人員全部一樣ニ揃ヘ薄色陣羽織横段元祿着物、無地烏帽子、扇子、足袋、履物

ニ、參加人員　百四十五名

別ニ青年團員整理ニ當ル

染織講社

京都染呉服商組合、關東織物盛奬會聯合

イ、屋台數　二台

ロ、屋台ノ構造

一台ハ寶船　一台ハ囃

ハ、組合員ノ服裝

烏帽子、大紋（五色）赤、青、黄、桃色、紫

ニ、參加人員　百名

京都木綿商京盛會組合

イ、屋台數　一台

ロ、屋台ノ構造

榊　鏡　釵　五色ノ布ノ飾

ハ、組合員ノ服装

紋付羽織袴、又ハ洋服

ニ、參加人員　五十名

京都市料理飲食業聯合組合

イ、屋台數　二台

ロ、屋台ノ構造

一台ハ緋縮緬大幟（長サ一丈八尺）遠山三寶（一丈三尺六尺）

一台ハ寶船（長サ一丈五尺）清酒四斗樽　三十樽積込

ハ、組合員ノ服装

男ハ洋服　女ハ訪問着

ニ、參加人員　男六十九名　女八十名自動車八台ニ分乗

日活太秦撮影所

イ、山車數　二台

ロ、山車ノ構造

優雅ナル装飾ヲナシ日活女優扮装（天棚機女神ノ像）雅樂入リ

祇園囃（囃方十六人）

ハ、組合員ノ服装

薄色陣羽織、横段元祿着物、無地ノ烏帽子、扇、白足袋揃ノ草履

ニ、參加人員　二百名

帝キネ太秦撮影所

イ、屋台數　一台

ロ、屋台ノ構造

、装飾自動車

ハ、服　装

普　通

ニ、參加人員　男、女優　十五名

日本織物新聞社

イ、屋台數　一台

ロ、屋台ノ構造

龍頭鷁首ノ御座船ニ鵜鳥神輿

ハ、服　装

獅子舞姿（雄雌二頭）

染織講社

ニ、參加人員　十名

白川水洗圖

イ、屋台數　一台

ロ、屋台ノ構造

弓　張

ハ、服　装

紺股引、踊縞袢（笛、太皷、鐘、獅子舞、雄入）

ニ、參加人員　二十名

染織祭奉祝踊

二日間　十二日ハ午後ヨリ
　　十三日ハ終日

踊ノ歌

染織祭歌（歌ノ節ハ豊國祭歌ノ節）

頃ハ昭和ノ六歳（ムトセ）ノ春ニ染織祭リ始マレリ

染織祭祝ヤ祝ヤ

モダンデ進ム此ノ世中ハ染織ナラデハ夜ガ明ケヌ

染織祭祝ヤ祝ヤ

世界各國進ムニツレテ流行（ハヤル）染織色模様

染織祭祝ヤ祝ヤ

世界各國端々マデモ京都染織大流行

染織祭祝ヤ祝ヤ

日本全國世界マデモ、ヒビク染織京都市

染織祭祝ヤ祝ヤ

祝ヤ祝ヤ染織祭リ開ク扇ノ春ノ風

染織祭祝ヤ祝ヤ

染織講社

昭和七年

七年

染織祭式次第

第一日ノ儀　四月九日

午後一時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修　祓
次　降　神　管絃　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮（市長）
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮（村田助役）
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮（八木常任理事）
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮（内務部長）
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮（相川内務部長）
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮（竹内農商部長）
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮（長谷川）
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　大平樂奏奏
次　諸員退下
午後九時昇神

第二日ノ儀　四月十日

午前九時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修　祓
次　降　神　管絃　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後六時昇神

染織祭行列順序（昭和七年四月十日）

一、午後一時迄ニ京都府廳前ニ集合

一、道　筋――午後一時三十分京都府廳前出發丸太町通ヘ、丸太町通ヲ烏丸ヘ、烏丸通ヲ四條ヘ、四條通ヲ河原町ヘ、河原町通ヲ二條ヘ、二條通ヲ東ヘ應天門通祭場ヘ

一、行　列

第一列

一番　祭事委員自動車（裝飾車）
二番　幣物自動車
三番　齋員自動車
四番　祭主（京都市長）自動車
五番　京都府知事自動車
六番　京都商工會議所會頭自動車
七番　染織講社理事長自動車
八番　染織講社常任理事自動車
九番　やすらひ花踊車　屋台　三台
　祭事委員自動車

第二列

市立第二工業學校　屋台　二台
次ニ同校色染科機械科學生（徒歩）百名
一番　西陣織物同業組合　屋台　二台
二番　京都木綿商京盛會組合　屋台　二台
三番　京都綿商組合／京都生絹商同盟會／京都濱縮緬商組合／丹後縮緬同業組合　屋台　二台
四番　西陣織物商組合　屋台　一台
五番　京都染呉服商組合／關東織物盛奨會　屋台　七台
六番　京都羊幹商組合／京都刺繍同業組合　屋台　一台
七番　京都染物同業組合　屋台　一台
八番　京都悉皆同業組合　屋台　一台
　祭事委員自動車

第三列

一番　中外染織新聞社　屋台　一台
二番　京都小貫商聯盟　屋台　一台
三番　日本染織新報社　屋台　一台
四番　日本織物新聞社　屋台　一台
五番　京都市消防團　屋台　一台
六番　日出新聞社　屋台　一台
　其ノ他
　救護班自動車
午後一時半ヨリ二時迄ノ間ニ於テ遊廓ノ藝妓連五百三十名揃ヒノ日傘、衣裳ニテ行列參拜

百田やすらい踊御連中
大正廓藝妓組合參拜御礼　三ノ日

第二列ノ説明

京都市立第一工業學校

イ、屋臺數　二臺

ロ、屋臺ノ構造

ハ、第一號車

上賀茂神社寄贈ノ大榊ヲ樹テ之レニ八咫ノ神鏡ヲ掛ケ五色絹ヲ配シ上古時代ノ神女ヲ前立チトナシ後部ハ几張ヲ建テ車体ハ紫白ノ幕ヲ以テ廻ラス

ニ、第二號車

裝飾自動車ニ京一工生徒ブラスバンド乘リ組ミ演奏シツヽ行進ス

ホ、服　裝

生徒制服制帽ヲ着シ各自一メートル程ノ五色吹散ニ櫻花ヲ配シタルモノヲ持チテ行進ス

ヘ、參加人員

男生百名　　職員十名

ト、監　督　者

第一工業學校長　　岩森彌助

チ、指　揮　者

第一工業學校教諭　　北村清有

西陣織物同業組合

染織講社

イ、標　識　組合旗　一流

ロ、屋　臺　數　二　臺

ハ、屋臺ノ構造

内一臺ハ漢織、呉織ニ扮シタル人形二体登乗（唐織其他西陣織物ヲ使用シタル本衣裳着用）シ其屋臺ノ構造ハ貨物自動車ヲ利用シ朱塗ノ欄干造リ五色ノ糸ヲ以テ装飾シタル機屋ヲ設ケ錦蓋、天平模様ノ織物ノ見送リヲ用ヒ車臺ノ周圍ハ凡テ西陣織物ヲ以テ装飾ス内一臺ハ一定ノ服装シタル雅子（男）十二人登乗シ祇園嘯他ノ一臺モ同ジク貨物自動車ヲ利用シ青竹ノ欄干、破風造リ草花、牡丹、西陣織ヲ以テ装飾ス

ニ、組合員ノ服装

染織講社

祭ニ一文字笠、持物扇

一、社ハ西陣特製絹唐織模様、有職竹田菱、裏ハ水色朱子紋ハ白地金襴ノ西陣マーク三個付

一、杯ハ西陣特製絹博多門道縞腰紋ハ白地金襴ノ西陣マーク一個付

一、着物ハ西陣特製正絹御召紋付藍小辨慶袖紋ハ白地金襴ノ西陣マーク二個付

一、帯ハ西陣マークヲ配シタル特製献上白地

一、笠ハ菅一文字染織講社マーク入

一、持物ノ扇子ハ西陣マーク入

一、足袋ハ白足袋

一、履物ハ天鵞絨鼻緒ノフエルト

ホ、參加人員　百七拾人

ヘ、釣臺　二個

ト、監督者　西陣繊物同業組合組長　長谷川市二

チ、指揮者　同　副組長　吉田寅之助

京都木綿商京盛會組合

イ、服裝及趣向

組合旗、眞榊、續イテ道樂ノ隊、奏樂裡ニ列ヲ作リ肅々ト行進ス最後ニ組合員代表者二名自動車ニ分乘シ隨伴ス

ロ、參加人　男四十人

ハ、監督者　本組合委員　細辻伊兵衛

ニ、指導者　仝　委員　藤瀬重三郎

京都縮緬商組合

京都生絹商同盟會

京都濱縮緬商組合　聯合

丹後縮緬同業組合

イ、屋臺數　二臺

ロ、屋臺ノ構造

一臺ハ漢羽、吳羽ニ扮裝シタル婦人ヲ乘リ込マシメ一臺ハ雛

シ何レモトラックヲ土臺トシ優美ナル裝飾ヲ施シタリ

染織講社

ハ、服　裝　羽二重袋斗目　社紋

ニ、參加人員　男百名

ホ、監督者　京都繪繭商組合組長　野橋作兵衛

ヘ、指揮者　合　副組長　村西清次郎

西陣織物商組合

イ、屋臺數　二臺

ロ、屋臺ノ構造

屋臺ハ貨物自動車ヲ利用一臺ハ漢羽、吳羽ノ像一臺ハ山鉾型ニ裝置シ祇園囃シ

ハ、服　裝

紫朱子ノ羽織着物ハ羽二重元祿模様編笠朱鞘ノ刀落シ差シ

ニ、參加人員　男六十名

ホ、監督者　株式會社渡邊商店　支配人　佐野金三郎

ヘ、指導者　三宅商店　三宅清治郎

株式會社矢代仁商店　高阪支配人

京都染吳服商組合　聯合

關東織物盛奬會

イ、屋臺數　七臺

ロ、屋臺ノ構造

一臺屋臺（貨物自動車）造リ物大鯛ニ囃シ其他ノ屋臺ハ優美

ナル裝飾ヲナス

ハ、服　裝　五色大紋　烏帽子

ニ、參加人員　男　百　名

ホ、監督者　染呉服商組合長　吉居佐助
盛奨會々長
下村株式會社　高橋吟次郎

ヘ、指導者　染呉服商組合役員
丸紅京都支店　中村周三
盛奨會幹事
外村與商店　猪田松太郎

京都半襟商組合
京都刺繍同業組合　聯合

イ、屋臺數　一臺

染織講社

ロ、屋臺ノ構造

貨物自動車ヲ利用御殿風造リ祇園囃子（唯方鼕斗目薄色紋付揃豆紋リノ手拭鉢巻）

ハ、參加人員　八十　名

ニ、服　裝

淺黄定紋付羽織紐カバ色、袴薄萌黄色染織講社定紋銘砂子散シ袴、紐古代紫、朱子頭巾古代紫紅絹裏持物尺五寸大扇染織講社定紋裏組合マーク入履物白足袋日光下駄鼻緒紅白段ダラ

ホ、監督者　若干　名

京都染物同業組合

イ、屋臺數　二臺

ロ、屋臺ノ構造

貨物自動車利用八色絹染メタル裝飾ニ元祿踊子乘用唯入

ハ、服裝

熨斗目ノ友禪ダンダラ袴冠リ物一文字笠

ニ、參加人員　男三百名

ホ、監督者　染物同業組合役員　田畑房次郎

ヘ、指導者　〃　松岡健太郎

京染呉服悉皆同業組合

イ、屋臺數　一臺

ロ、屋臺ノ構造

貨物自動車ヲ利用中央ニ大榊一本ヲ設置シ四方ニ笹付青竹ヲ一本ヅヽ立テ染人之ニ乘リ奏樂（人員七名）

ハ、高張　二基

ニ、組合旗　壹旗

ホ、長柄大花傘　壹基

花牡丹ヲ重ネテ山吹ヲ配ス周圍ハ後ノ下ニ直徑十二尺ノ總ヲ十二尺傘ノ骨ニ帽額（モコウ）ヲ廻ラス此ノ織物表紅地ニ蝶鳥ノ紋ヲ縫取リ裏薄紅ノ麻布ヲ附ス更ニ漂色ト白ノ紋染分ノ總角（アゲマキ）ヲ附ス

捧持者ハ蘇芳色ノ雜色ヲ着ス手替共三人各々袴ハ奴袴ヲ着シ平禮烏帽子ヲ冠リ單衣ハ黃色ノ芦絹

染織講社

第三列ノ説明

京都小賣商聯盟

イ、屋　臺　數　一　臺

ロ、屋臺ノ構造

醍醐ノ花見櫻木金ノ大瓢及大杯ヲ按配シタルモノ

ハ、服　裝

桃山時代ニ適ハシキ羽織、袴着用

ニ、參加人員　二十名

ホ、監督者　全聯盟幹事長　横川松之助

ヘ、指導者　全　役員　梁川治郎藏

今福倉之助

染織講社

日本織物新聞社

イ、屋　臺　數　一　臺

ロ、屋臺ノ構造

横造神輿ノ外獅子二頭　六名（服裝上紋服下カルサン）

ハ、服　裝　洋　服

ニ、參加人員　男三十名

ホ、監督者　山岡末造

ヘ、指導者　村瀬義雄

日本染織新報社

第三列ノ説明

京都小賣商聯盟

イ、屋　臺　數　一　臺

ロ、屋臺ノ構造

醍醐ノ花見櫻木金ノ大瓢及大杯ヲ按配シタルモノ

ハ、服　裝

桃山時代ニ適ハシキ羽織、袴着用

ニ、參加人員　二十名

ホ、監督者　全聯盟幹事長　横川松之助

ヘ、指導者　全　役員　梁川治郎藏

今福倉之助

染織講社

日本織物新聞社

イ、屋　臺　數　一　臺

ロ、屋臺ノ構造

横造神輿ノ外獅子二頭　六名（服裝上紋服下カルサン）

ハ、服　裝　洋　服

ニ、參加人員　男三十名

ホ、監督者　山岡末造

ヘ、指導者　村瀬義雄

日本染織新報社

イ、服　裝　織姫ヲ畫ケル陣羽織

ロ、參加人員　十　名

ハ、監督者　仝社社長　齋藤天眞

ニ、指導者　舟原隆（松

中外染織新聞社

イ、屋臺數　一　臺

ロ、屋臺ノ構造

四角ノ箱形高サ八尺横八尺布張リニ繪具ニテ櫻ニ旭金箔ヲ散シタルモノ

ハ、服　裝　モーニング

染織講社

ニ、參加人員　三十　名

ホ、監督者　榎本兵衛

京都市消防組

イ、屋臺數　一　臺

ロ、屋臺ノ構造

自動車ノ車臺ヲ使用シ消防自動車ニ假裝高サ約七尺ノ（マトヒ）ヲ積載シ行進中回轉スル樣ニシ乘車員三名

ハ、服　裝　消防團員正服（ハッピ）

ニ、參加人員　消防員　五百名

ホ、監督者　消防組合頭　安村太郎吉

歌

花や咲きたるや安らや
花や咲きたるや、
夜須礼花や
やすらい花や。

やすらい花や
やすらい花や、
やすらい花や
やすらい花や
やすらい花や

昭和八年

1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭式次第

第一日ノ儀　四月八日

午後一時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓
次　降神　常振一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　倍膳奉奏
次　諸員退下
午後九時昇神

第二日ノ儀　四月九日

午前九時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓
次　降神　常振一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後六時昇神

染織祭行列順序（昭和八年四月九日）

一、午後一時迄ニ京都府廳前ニ集合

一、道筋――午後一時三十分京都府廳前出發、丸太町通ヘ、丸太町通ヲ烏丸ヘ、烏丸通ヲ四條ヘ、四條通ヲ河原町ヘ、河原町通ヲ二條ヘ、二條通ヲ東ヘ、應天門通祭場正面ヘ

一、行列

	業人	
一番	祭事委員自動車（裝飾車）	
二番	幣物自動車	
三番	齋員自動車	
四番	祭主（京都市長）自動車	
五番	京都府知事自動車	
六番	京都商工會議所會頭自動車	
七番	染織講社理事長自動車	
八番	染織講社常任理事自動車	
	祭事委員自動車	
九番	上古時代（機殿參進の織女）	三台
	京染呉服悉皆同業組合	
十番	奈良朝時代（歌垣）	三台
	京都染呉服商組合	
十一番	平安朝時代（やすらい花踊）	三台
	關東織物盛奨會	
十二番	鎌倉時代（女房の物詣）	三台
	京都繻珍商組合、京都濱縮緬商組合	
	京都生絹同盟會、丹後縮緬同業組合	
十三番	室町時代（諸織の婦女）	二台
	西陣織物商組合	
十四番	桃山時代（醍醐の花見）	三台
	日本染織物見本市協會、京都半襟商組合	
	京都刺繍同業組合、京都蚕糸商同業組合	
	京都木綿商京盛會、京都系物同業組合	
	京都輸出友仙組合	
十五番	江戸時代初期（小町踊）	二台
	京都染物同業組合	
十六番	江戸時代末期（京女の晴着姿）	三台
	西陣織物同業組合	
	救護班自動車	
	祭事委員自動車	



1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭時代行列の解說

染織祭時代行列の解說

上古時代

機殿參進の織女

皇祖大神の和妙荒妙の神衣を奉織する織女が、紡織の器具を捧げて機殿に參進する姿態を模したので、服制々定以前に於ける上代の形式に據つたのである。

人數十六人

頭髮は垣輪に存せる髣髴、及び垂髮の各種とし、髻には布帛を結び、櫛及び櫻、桃、橘など天然の枝（模製）をさしかざし、垂髮には木綿を裝ふこととした。

衣服は上衣は方領或は盤領とし、紐にて結び、白地又は紅、黃などの淺色地にしのぶ、紅葉など種々の摺文樣（模製）を施したもの或は染色のみのものを用ゐ、之に下衣を加へ、帶は倭文即ち縱横の綺織のものを用ゐ、裳は種々の染色のもの又は倭

1-1　染織祭記録　　昭和6年

文、摺文樣のものなどを用ゐ、又紅の下裳をも用ゐる。頸玉、手玉などを纏き、白き領布を靡け、鳥を穿くのであつて、總べて清楚なる姿である。

持物は桧、旒、絲墜、拂、麻笥、紡錘、糸の各種二つづゝである。

奈良時代

歌垣

歌垣は上古多數の男女が、廣い場所に相集り、歌を唱ひ、舞蹈して樂しく遊んだのであるが、奈良時代には男女華やかに裝うて會集し、天覽に供し奉るに至つた。この行列は當時の婦女が、うち連れて歌垣の場所へ向ひ進む有樣を現したので、服裝は當時の婦人の朝服に準じたのである。

人數は二十人

頭髪は或は髻を高く立て、或は髷を結ぶなど、凡そ三種を採り、大小の横、花鈿、釵子を挿すのである。

衣服の樣式は、何れも大體は同じく、衣（表着）の上に唐衣を加へ、裙を纏ひ、紕帶を加へ、領巾を懸け、襪（足袋）及び鳥を穿くのである。表着は綾地で、紺、綠、緋の各色に深い淺い差があり、種々の文樣がある、唐衣は錦、綾或は夾纈などを用ゐ、その中には錦の襴並に緣を加へたものもある。

紕帶は深淺の紫、又は綠などの絲を縫ひ合せて、これに縁を加へたものであり、領巾は紗地である。以上の錦綾などの地質文樣又は纐纈、蔴纈、夾纈などは何れも正倉院御物に據つたので、近來最も精細に研究されてをる所謂天平藝術の粹を拔いたものである。又何れも騎形の團扇を持つてをる。

平安朝時代

やすらい花踊

この踊は同末期である近衛天皇久壽元年に、京中の兒女が風流を盡し、鼓笛を調べ

1-1　染織祭記録　　昭和6年

て、紫野社（今宮神社）に參詣した。これを「夜須禮」といふと百錬抄に見え、又年中行事繪卷に高雄寺の法華會に京中の童女が、歌舞を行ひ、「やすらいはな」といふと見えてをる。この名稱は歌謠の一句の終ごとに「ヤスライハナヤ」と唱へたからであらう。この服裝は同繪卷に據つたので、何れも和妻に綾圍笠を被つてをる。

人數二十三人

頭髪は何れも垂髪で、綾圍笠は巾子に山鳥の尾を挿し立て、紅紫などの風帶を長く結び垂らしてあるのが特徴である。衣服は染色の衣卽ち小袖と下着とを襲ね、同じ地の帶を締め、その上に和を着るのである。和は、色は各異つてをるが、柳櫻文樣の固地綾を表とし、裏は平絹である。履物は編餘の出てをる下々と稱するものを用ゐてをる。

持物は扇の外、鈴、鼓、鍋拍子であつて、躍る時、音頭の持つてをる太鼓に合せて

用ゐるのである。

鎌倉時代

女房の物詣

婦女の神社、佛閣に參詣する姿であつて、人數は主從廿二人である。

この中女房は當時代に行はれた各種の被物を用ね、菜垂絹五人、被衣、市女笠各三人である。

髪は垂髪、

衣服は色々の絹の小袖及び下着を着け、同じ帶を締め、織物又は綾に日染、摺箔などを施した袿を襲ねて、これを壺折とし、これに紅の懸帶を懸けて後に垂らしてをる。被衣は色々の文樣のある練貫を用ゐてをる。履物は下々を穿いてをる。

持物は守袋を懸け、薄絹を張つた扇を用ゐてをる。

供女は髪を垂らし、小袖に袿を襲ねてこれを壺折とするもの、又は縦横の綉又は村

1-1 染織祭記録 昭和6年

濃などの裳袴を着けてをるもの〻二樣で、何れも下々を履くのである。

持物は織物又は錦の上差袋及び骨袋などである。

室町時代

諸職の結女

室町時代に於ける、染織關係の職業に從事する結女の姿であつて、何れも職人盡の繪を基とし、其他の資料を參考としたものであるが、機織、紺搔(紺染)、扇賣、帶賣、絞師(しぼり染)、繰物師、組師、帖紙賣、白布賣、綿賣、煮物賣、白いもの賣(白紙賣)、桂女の十三種を撰ぶことゝした。

但し桂女は鮎賣であるが、當時代の特色あるものとして加へることゝした。

人數は一人づゝ十三人

以上の服裝は、職業により、夫々特色があるが、髮は結髮又は垂髮であつて、桂女紺搔など二三は結髮に白布の髮卷を纏うてをり、垂髮にも根卷を加へてをる。

着衣は小袖に下着を重ね、細い帶を締めてをる。又扇賣、帶賣、帖紙賣、煮物賣など數人は打掛を加へてをる。この打掛又は小袖は當時の特徴ある形式に據り、染織及び繡の各種を用ゐることは勿論、その文樣も總て女樣、眉裾、腰取、片身交りなどの各種を採り、辻が花染、絞り染、描繪、型摺、摺箔を始めて、各種の文樣を用ゐ帶にも染絹に繡を加へたものもある。服物は下々である。以上の中、桂女は曲物の鮎桶を提げてをるが、其他はそれ〴〵の職業に因んだ畫を描いた扇を持つてをる。

この行列は、大體に身輕な服裝ながら、瀟洒の間に風情ある姿態を現はしてをる。

桃山時代

醍醐の花見

有名な醍醐の花見で、慶長三年三月十四日に豐公及び北政所を始め、西の丸、松の丸、三の丸、加賀局、東の御方たちの上﨟が醍醐三寶院にて服具を改め、徒歩で花見に出かけられる行裝を模すことゝし、豐公並に秀頼を省いて婦人のみを現はした

のである。

人數は政所並に上臈衆六人、侍女十二人

政所たちの服裝は、頭髪は垂髪に元結を附け、三枚又は二枚を重ねた下着の上に間着を着け、細き帶を前に結び垂れ、その上より打掛を曳ねるのである。更に被衣を用ゐたのもあるが、これは略することゝした。

打掛は間着以下と共に身巾廣く、袖巾狹く短き形式であるが、織物又は綸子等に繍、縫染、摺箔、描繪等の各種を用ゐて、何れも絢爛たる桃山文樣を現はし、その技巧を極盡したものである。

間着は紅又白の二樣とし、その下着數枚は何れも色とり〴〵の地に前述の各種の技巧を加へた美しいものである。

足袋は綸子に打紐を着け、蔴草履を穿き扇を持つのである。

侍女は十二人の中二人は童女姿である。

その十人の服裝は打掛、間着、下着、帶等何れも地質文樣などに幾分の差異を生ずるが、その樣式は殆んど上臈のに同じ美しいものである。

童女は紫、緋等に彩られたるやゝ短い振袖の小袖を着け、政所に隨うて、赤地に揚羽の桐の紋の手鞠を持つのである。

又侍女は二人、或は一人づゝ政所以下に隨ひ、或は日傘をさしかけ、或は定家袋などを持ち行くのである。

江戸初期

小町踊

これは七月七日に行うたから、七夕踊ともいうた、京中の兒女一群をなし、美服を競うて着飾り、大鼓を打ち、小歌を唱うて踊したのである。附添の乳母等が日傘をさしかけ、扇又は團扇にてあふぎ、彼方此方の知人の家々を踊り巡つたのである

この踊は寛永以前から行はれたやうであるが、元祿頃の風俗に據ることゝした。

人數　踊子十人、附添六人

踊子

頭髪は島田で色紐子の鉢巻を締め、造花を挿して飾りとする。

衣服は上着下着襦袢であるが、上着は當時流行し初めた友禪染に繍などを加へ、下着は大形の紅地絞り文様などで、縞物の帶を結び、上着は右を袒ぎ、（兩肩を脱ぐこともある）左肩より右へ、帶二つ折の結褌を懸け、足袋は色木綿で、尻切草履を穿くのである。

持物は金太鼓、撥である。

附添

頭髪は兩輪等に結び、衣服は上着下着襦袢であるが、何れも晒布の帷子で、上着には種々の染文様に繍を加へ、金入の綸子又は繻子の帶を結び、草履を穿き、團扇を持つて、踊子をあふぎ、繪傘をさしかざすのである。

江戸時代末期

京女の晴着姿

江戸時代の末期に當る頃、京都に住める公家（堂上家）、武家、町家の婦女等の晴着姿を模したのであるが、その時期は同一ではないのである。勿論當時身分ある人の外出には必ず禮服を用ゐたのであるが、こゝには姿を現す爲め、すべて徒歩とし、且つ男子の從者を省いてをる。

人數は公家、武家、町家各五人づゝ十五人で、

公家、奥方、姫君、黒齒、白齒、お伽の五人、

奥方掻取に被衣姿、

頭髪はおさへ髷とし、眉を引き、齒を染める。

衣服は紅綸子の間着に白羽二重の下着、及び襦袢を襲ね、間帶を前に結び、丸ぐけをしめ、掻取を着て、被衣を加へるのである。掻取は鼠色柳シボ地に色糸金糸など

1-1　染織祭記録　　昭和6年

の袖を加へたものであり、被衣は紺絽で上綿を載せて被るのである。以上何れも詰袖であつてポンポリ（扇）を挿し、袂落しを用ゐ、足袋は白で、三本鼻緒の縁取三枚草履を穿くのである。

姫君、十七八才の振袖の被衣姿である。

頭髪はつぶ髷である。

衣服は絣縮緬の間着に、白の下着及び襦袢とし、繻の間帯は後に結び、地赤の繻及び鹿ノ子等染文様の掻取を上に加へ、ポンポリを挿し、袂落しを用ゐ、五本鼻緒の縁取三枚草履を穿く。

被衣は紺絽の振袖である。

侍女

黒島、二十二三歳の紋付に被衣姿、

頭髪はおさへ髷である。

濃い御召色紋付裾文様の詰袖に織物の帯を結び、紺絽の被衣を被るのである。併し被衣の色及び文様には奥方などのとは差異がある。白木綿の足袋に紫一本鼻緒の二枚草履を穿く。

白島、十七八歳

頭髪は下げ上げに結ふ

上着は縞物の中振袖で、下着、襦袢を着け、織物の帯を後に結ぶ、足袋、履物は黒島に同じく鼻緒は赤である。

お伽、十二三歳

髪は竹の節で白元結を掛けてをる。

上着はきし縞の中振袖で、その他は前に準じた服装であるが、帯は縞繻子を用ゐる

武家

京都常番武家の服装を現はしたのである。奥方、姉娘、妹娘、女中黒島、同白島の

1-1　染織祭記録　　昭和6年

五人、

奥方　打掛姿

髪をおさ舟に結ひ眉を剃り齒を染める。衣服は間着、下着、襦袢を重ねて掛下帯を結び、織物の打掛を着るのである。白足袋に履物は縁取三枚草履で、懐剣を收め、扇を持してをる。

姉娘、十七八歳の紋服振袖姿

島田髷とし、淡朱黄縮緬の紋付腰文様の振袖を著け、青み羽二重の下著、緋縮緬の襦袢を重ねて、織物の帯を後に結び、緋しごきを締めて、右脇に垂らし懐剣及び袱紗子を懐にし、白足袋に縁取三枚草履を穿いてをる。

妹娘、十三四歳の紋服振袖姿

髪は後髷髷であつて、衣服は緋縮緬の紋腰振袖とし、青み羽二重の下著、緋縮緬の襦袢であるが、振袖の縫、又は染文様は姉娘より更に大きくなつてをる。帯は織物

で、だらりに結び、鶯色のしごきを左脇に結び垂らすのである。懐劍、箱袱子等は同樣である。

黒齒、小紋姿

髪を兩手に結び、眉を剃り、齒を染める。

衣服は小紋の詰袖で、淺黄絹の下著を重ね、織物の帯を太鼓に結び、一本鼻緒の雪駄を穿く。

持物は鏡附、定家袋である。

白齒　小紋姿

髪は島田髷に白丈長を加へる、

衣服は小紋裾文様の中振の小袖に、淺黄絹の下著を重ね、天鵞絨の帯をやの字に結ぶ白足袋で、履物は一本鼻緒の雪駄である。

持物は鏡附、日傘である。

1-1　染織祭記録　　昭和6年

町家　嫁、姉娘、妹娘、女中二人の五人

嫁は、二十三四歳の紋裾安

頭髪は先笄髷である。

衣服は、茶色の紋付菜玉の裾文様で、縮緬地留袖である。これに更紗の下着及襦袢を重ね、ランケイ織の帯を結び、縮緬の帯上を加へ、白足袋に、緑取三枚草履を穿くのである。又烟草入、紙入を懐にし、扇を挿してをる、

姉娘　紋裾振袖安

頭髪は島田髷である。

衣服は紋付に金色糸の繍を加へた裾文様の振袖を着け、縮緬の下着並に襦袢を重ね、錦の帯をだらりに結び、しごきを垂らし、白足袋に、緑取草履を穿く。又箱袋子を懐にし扇を挿してをる。

妹娘　同上

頭髪は割しのぶに結うてをる。

衣服は紫地紋裾振袖等、姉娘に準じて更に大文様である。下着は緋鹿の子、帯は錦でだらりに結び、緋しごきを垂らしてをる。

女中　紬紋付安

頭髪はかけおろし髷に結び、歯を染め眉を剃つてをる。

衣服は紬淡色紋付を着て黒繻子の帯を用ゐてをり、白足袋に雪駄である。

持物は、定紋袋、日傘

女中

頭髪以下同様であるが、白歯で眉を剃らない。帯は紫繻子である。

持物は日傘である。

以上各時代各種の服装につき、名称は同一であつても時代と身分とにより、形状、

様式を異にするものがあり、又文様等に至つては、それ〳〵特色があつて、最も留意を要する所であるが、一々述べ盡し難いので、こゝには唯その大要を說明したに過ぎないのである。


昭和六年四月九日
染織祭時代行列の所役
上古
鎌倉
奈良
平安
室町
江戸(初)
桃山
江戸(末)

染織祭時代行列

上古時代（鳥原）

機殿参進乃綾女

永原三栄

熊木吉代次

横田小芳

吉川量躬

清水三津奴

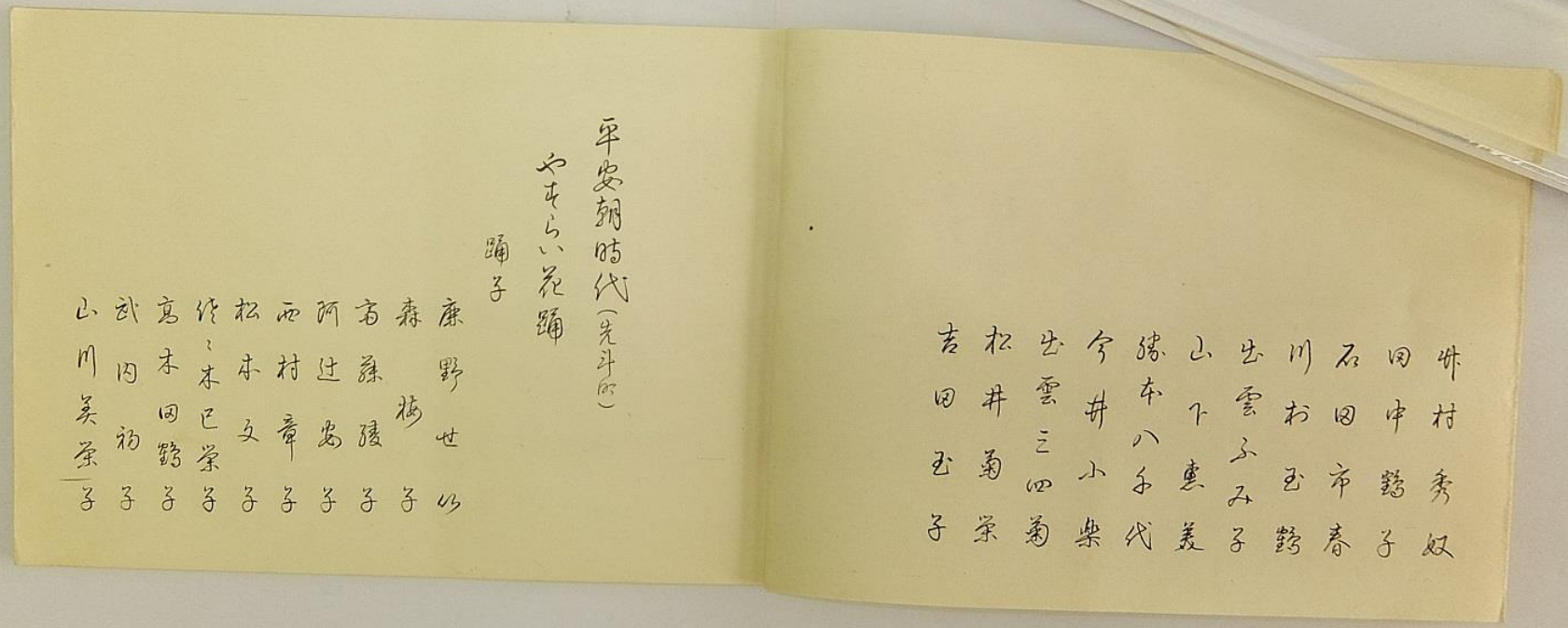
是安百子

青木右助
西川喜久長
山下梅福
阪西久長
高橋登代子
小澤熊吉栄
河越登美
青木松代
福田市子
栗山富代

奈良朝時代（上七軒）

歌垣

出雲き如子
松井葉蝶
香西菊鶴
谷村鶴奴
水口歌之助
岩永富江
渡辺桃千代
加畑松吉
桑かづ栄



平安朝時代（先斗町）
やまらい花踊
踊子
廣野世以
森梅子
富蘇隆子
阿辻為子
西村章子
松永文子
佐々木巳栄子
高木田鶴子
武内初子
山川美栄子

伴村秀奴
田中鶴子
石田市春
川お玉鶴
出雲ふみ子
山下恵美
緒本八千代
今井小柴
出雲三四菊
松井菊栄
吉田玉子

戸井田清子
左田千江子
左田千代子
中村正
山田良江
平田よし子

幹子
平尾市香
梅谷藤右衛
佑ゝ末豆九
中村良子
高橋末子
川見容子
西村敏子

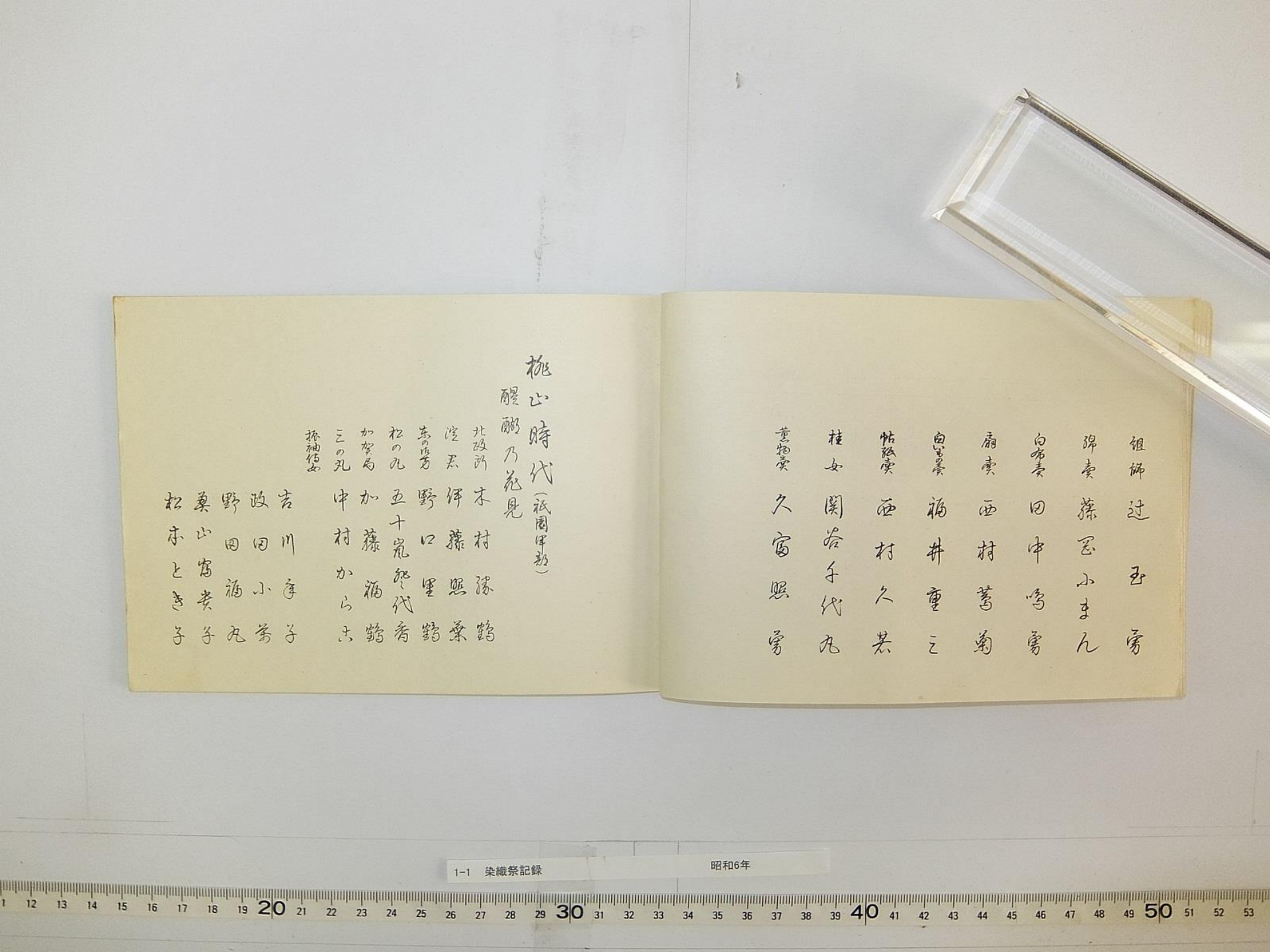
鎌倉時代（室町時）
女房行物語

女房　井上種代
供女　今種雪
女房　西村福香
供女　今　等一
女房　石原加代路
供女　芸崎為業
女房　田井美子架
供女　今　菊香
女房　羽栗一鶯
供女　今　種鶯

女房　松村小奴
供女　三木梅鶴
女房　駒井稚栄
供女　北村仏笑
女房　雨宮稚三
供女　今稚鶴
女房　大野為龍
供女　今　　君乃
女房　咲田吉三
供女　今　　咲葉
女房　庵為枡奴
供女　北村初奴

宮町時代（北許地東部）
諸職乃婦女

機織　杉山雛鶴
紺掻　為村久鶴
紫染　為笑吉助
紋師　田中玉峰
錺物師　山田美津栄


俎師辻 五客
綿売 藻屑小まん
白帯売 田中鳴雪
扇売 西村菊
白雪堂 福井重之
帖紙売 西村久恭
桂女 関谷千代丸
薫物売 久富照雪
桃山時代（祇園甲部）
醍醐乃花見
北政所 木村漆鶴
淀君 伴藻照葉
朱の盆 野口里鶴
松の丸 五十嵐怒代香
加賀局 加藤梅鶴
この丸 中村かふ志
振袖姿
吉川孝子
政田小笠
野田福丸
菓山富美子
松本ときよ

つめ袖侍女

八木小れん
大塚だん子
川合三四子
高橋三栄
渡辺子桃

童女

杉本久福
辻 芳光

江戸時代初期（祇園乙部）

小町踊

踊子

清沢三吉
五十嵐芳子
田尻三五
田中千代福
上柳加代子
西川治子
中西房子
井上咲子
岡田八重子
小幸政子

妃方

田中和子
宮崎玉子代
山田鍋子
河内小芳
大田常子
西村叶二

江戸時代末期（孝明天皇）

京女乃晴着姿

公家

奥方　高岡加代
姫　山田笑子代
墨絵女　濱口小奴
白墨絵女　米若小政
御仲　久保千代丸

武家

東方　酒井お秀
娘姉　榊木稚子代
娘妹　綿木小金
黒牽牛　望月静奴
白黒牽牛　黒田秀吾

町家

嫁　磯田七五三子
姉娘　川口ふた郎
妹娘　山田昌代
女中　柳下喜代次
今　今村喜久子

染織祭小町踊唱歌

鴨の磧に　千鳥がふける
何とふけるぞ　立ちよってきけぞ
今年やよい年　わが國繁昌
染と織とは　大繁昌
都大路ふ　雅がふける
何とふける　そよ吾妻ぎけば
ほかぢやんられぬ　染織まつり
さすが　美術の大京都

深隈祭やさらい花踊唱歌

都の北の紫野　今宮あたりの花盛

エイエ　やすらふ花や

富貴の花もみな苦みくらのふにあるまでに

エイエ　やすらい花や

命をほこりたた千代萬代までも栄らへむ

エイエ　やすらい花や

西陣隈ほりをなし友禅染を海をこゑ

エイエ　やすらい花や



1-1　染織祭記録　　昭和6年

昭和九年

染織祭式次第

第一日ノ儀　四月七日

午後一時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修　祓
次　降　神　音樂　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　舞樂奉奏（萬歲樂）
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後九時昇神

第二日ノ儀　四月八日

午前九時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修　祓
次　降　神　音樂　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後六時昇神

◇染織祭行列順序（昭和九年四月八日）

一、午後一時迄ニ京都府廳前ニ集合

一、道　筋　午後一時三十分京都府廳前出發……下立賣通リヲ烏丸ヘ　烏丸通リヲ……四條ヘ　四條通リヲ……河原町ヘ　河原町通リヲ……二條ヘ　二條通リヲ……應天門通リ祭場ヘ

一、行　列

染織祭族樂人

一番　祭事委員自動車
二番　幣物自動車
三番　賣員自動車
四番　祭主（京都市長）自動車
五番　京都府知事自動車
六番　京都市長（代理）自動車
七番　京都商工會議所會頭自動車
八番　染織講社理事長自動車
九番　祭事委員長自動車
十番　常任理事自動車
十一番　祭事委員自動車

上古時代

十二番　上古時代屋台（機殿參進の織女）　三台
旗（京染呉服悉皆同業組合）
組合員徒歩　（四十人摺衣姿）
附添人自動車（島原）

奈良朝時代

十三番　奈良朝時代屋台（歌垣）　三台
旗（京都染呉服商組合）
組合員徒歩　（二十八人朝服姿）
附添人自動車（上七軒）

平安朝時代

十四番　平安朝時代屋台（やすらい花踊）　三台
旗（關東織物盛奨會）
組合員徒歩　（二十人水干姿）
附添人自動車（先斗町）

鎌倉時代

十五番　鎌倉時代屋台（女房の物詣）　三台
旗（京都縮緬商組合、京都濱縮緬商組合、京都生絹同盟會、丹後縮緬同業組合）
組合員徒歩　（三十人直垂姿）
附添人自動車（宮川町）

室町時代

十六番　室町時代屋台（諸職の婦女）　二台
旗（西陣織物商組合）
組合員徒歩　（三十一人素襖姿）
附添人自動車（北新地）

桃山時代

十七番　桃山時代屋台（醍醐の花見）　三台
旗（日本染織物見本市協會、京都羊衫商組合、京都刺繍同業組合、京都木綿商京盛會、京都蠶糸商同業組合、京都洋反物商組合）
組合員徒歩　（二十八人肩衣姿）
附添人自動車（祇園甲部）

江戸時代（初期）

十八番　江戸時代（初期）屋台（小町踊）　三台
旗（京都染物同業組合）
組合員徒歩　（七十二人羽織袴姿）
附添人自動車（祇園乙部）

江戸時代（末期）

十九番　江戸時代（末期）屋台（京女の晴着姿）　二台
旗（西陣織物同業組合、西陣着尺織物工業組合）
組合員徒歩　（百五十人織袴姿）
附添人自動車（中書島）
救護班自動車
祭事委員自動車

二十番
二十一番



1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭時代行列

上古時代（島原）

機織姿姫乃侍女

奈良朝時代（上七郷）

歌姫

平安朝時代（花斗町）

やすらい花踊

鎌倉時代（宮川町）

女房乃物語

室町時代（北野天満宮）

謡曲乃舞女

桃山時代（祇園甲部）

祇園乃花見

北政所　淀君
東の方　松の丸
加賀の局　三の丸
淀御侍女　淀御侍女
童女　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

大宅壺山吉野谷の水池塩谷中渡五郎作木
十
田西谷木川田本田山田谷木村辺嵐村木藤村
小とととた桃かか登之照つ
福子猪、福、竹久つ子代
だしきみ千ら代
ん助路菜子丸子若子勇代助よ助路菜菜勝

江戸時代初期（祇園乙部）

小町踊

師子　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃

昭和十年

1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭式次第

第一日ノ儀　四月六日

午後一時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓
次　降神　音樂　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後十一時昇神

第二日ノ儀　四月七日

午前九時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓
次　降神　音樂　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後十時昇神

◇染織祭行列順序（昭和十年四月七日）

一、午後一時迄ニ京都府廳前ニ集合

一、道筋　午後一時三十分京都府廳前出發……下立賣通リヲ烏丸ヘ　烏丸通リヲ……四條ヘ　四條通リヲ……河原町ヘ　河原町通リヲ……二條ヘ　二條通リヲ……應天門通リ祭場ヘ

一、行列

染織祭旗

樂人

一番　祭事委員自動車
二番　幣物自動車
三番　齋員自動車
四番　祭主（京都市長）自動車
五番　京都府知事自動車
六番　京都市長（代理）自動車
七番　京都商工會議所會頭自動車
八番　染織講社理事長自動車
九番　祭事委員長自動車
十番　常任理事自動車
十一番　祭事委員自動車

十二番　江戸時代（末期）屋台（京女の晴着姿）二台
旗（西陣織物同業組合、西陣着尺織物工業組合）
組合員徒歩　（百五十人織袴姿）
附添人自動車（中書島）

十三番　江戸時代（初期）屋台（小町踊）三台
旗（京都染物同業組合）
組合員徒歩　（八十二人羽織袴姿）
附添人自動車（祇園乙部）

十四番　桃山時代旗　桃山時代屋台（醍醐の花見）三台
旗（日本染織物見本市協會、京都牛紗商組合、京都刺繍同業組合、京都木綿商京盛會、京都靈糸商同業組合、京都洋反物商組合）
組合員徒歩　（三十六人肩衣姿）
附添人自動車（祇園甲部）

十五番　室町時代旗　室町時代屋台（諸職の婦女）二台
旗（西陣織物商組合）
組合員徒歩　（三十一人素襖姿）
附添人自動車（北新地）

十六番　鎌倉時代旗　鎌倉時代屋台（女房の物詣）三台
旗（京都縮緬商組合、京都濱縮緬商組合、京都生絹同盟會、丹後縮緬工業組合）
組合員徒歩　（三十人直垂姿）
附添人自動車（宮川町）

平安朝時代旗
十七番　平安朝時代屋台（やすらい花踊）三台
旗（京都關東織物卸商業組合）
組合員徒歩　（二十人水干姿）
附添人自動車（先斗町）

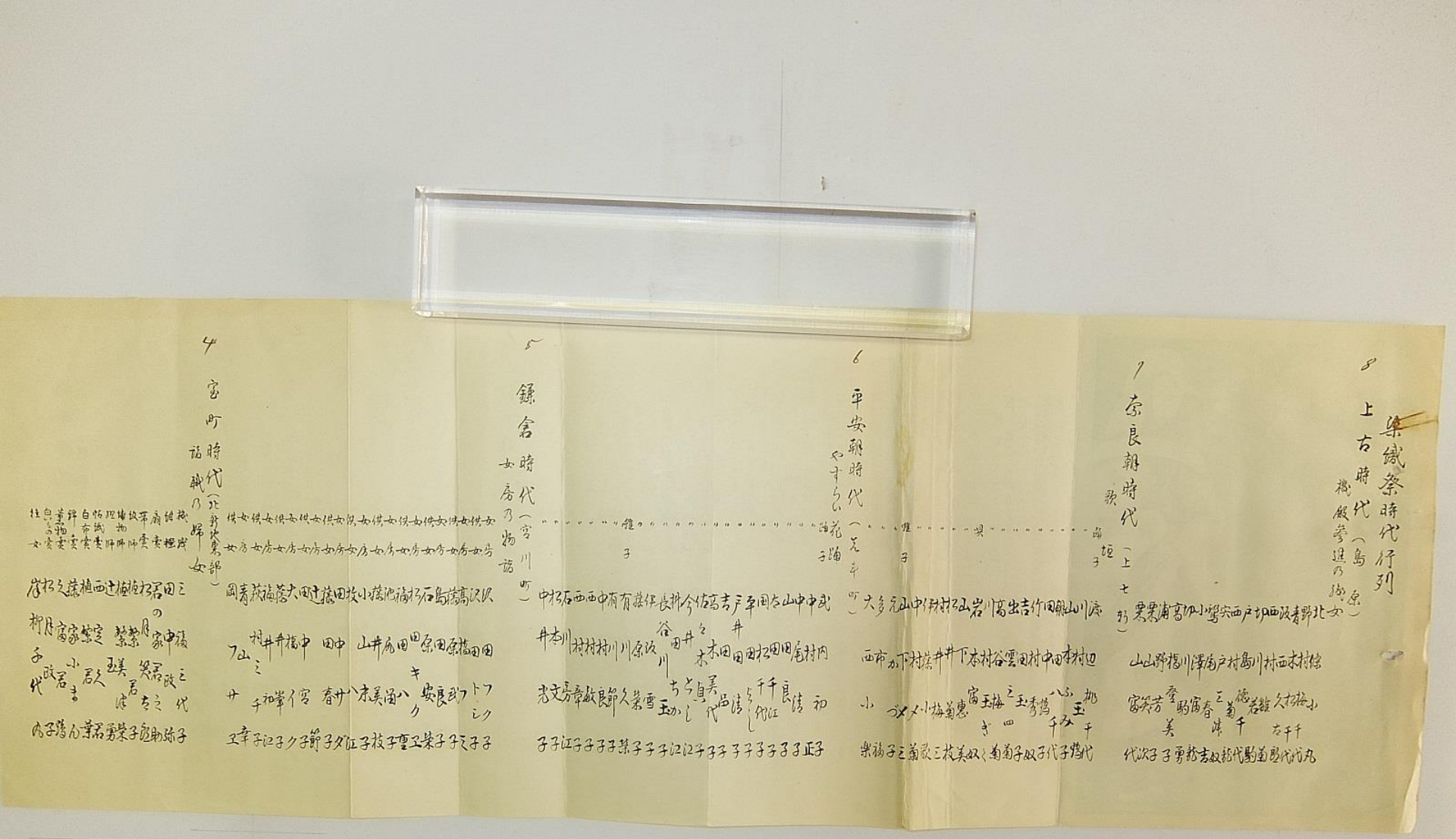
奈良朝時代旗
十八番　奈良朝時代屋台（歌垣）三台
旗（京都染呉服商組合）
組合員徒歩　（二十八人朝服姿）
附添人自動車（上七軒）

上古時代旗
十九番　上古時代屋台（機殿參進の織女）三台
旗（京染呉服悉皆同業組合）
組合員徒歩　（三十人摺衣姿）
附添人自動車（島原）

二十番　救護班自動車
二十一番　祭事委員自動車



1-1　染織祭記録　　昭和6年



染織祭時代行列

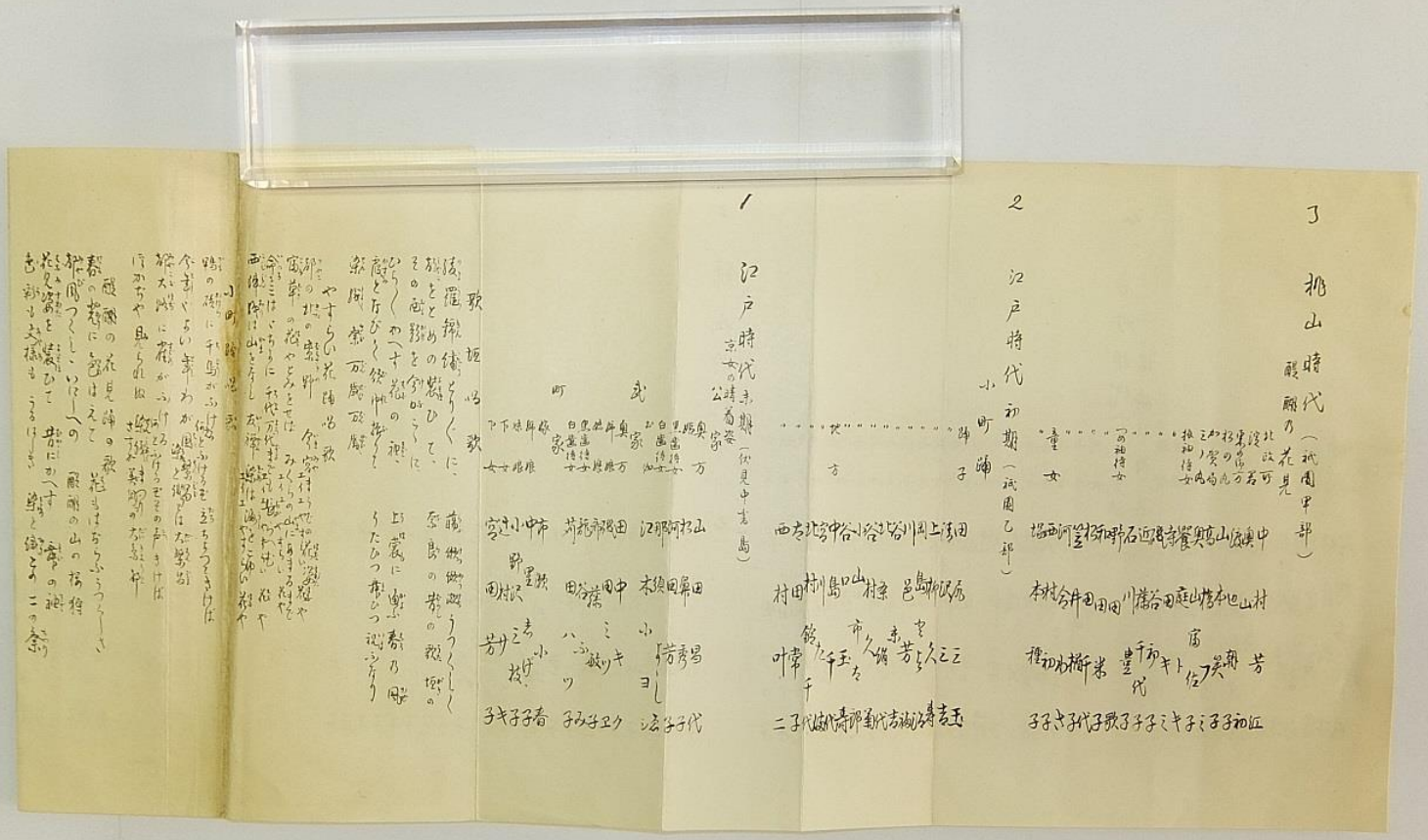
1 上古時代（島原）

2 奈良朝時代（上七分）

3 平安朝時代（えすらい花踊）

4 鎌倉時代（宮川町）

5 室町時代（五野伝寒詣）



3 桃山時代（祇園甲部）

饅頭の花見

2 江戸時代初期（祇園乙部）

小町踊

1 江戸時代末期（伏見中書島）

京女の時勢姿

歌

昭和十一年

十一年

染織祭式次第

第一日ノ儀　四月四日

午後一時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓
次　降神　菅掻　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後十一時昇神

第二日ノ儀　四月五日

午前九時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓
次　降神　菅掻　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後十時昇神

◇染織祭行列順序（昭和十一年四月五日）

一、午後一時迄ニ京都府廳前ニ集合

一、道　筋　午後一時三十分京都府廳前出發……下立賣通ヲヲ烏丸ヘ　烏丸通ヲヲ
……四條ヘ　四條通ヲヲ……河原町ヘ　河原町通ヲヲ……二條ヘ　二條通ノヲヲ……應天門通ノ祭場ヘ

一、行　列

染織祭旗

樂　人

一番　祭事委員自動車
二番　幣物自動車
三番　齋員自動車
四番　祭主（京都市長）自動車
五番　京都府知事自動車
六番　京都市長（代理）自動車
七番　京都商工會議所會頭自動車
八番　染織講社理事長自動車
九番　祭事委員長自動車
十番　常任理事自動車
十一番　祭事委員自動車

二　列

十二番　上古時代屋台（機殿參進ノ織女）　三　台
旗（京染吳服悉皆同業組合）
組合員徒歩　三十人
附添人自動車（島原）

十三番　奈良朝時代屋台（歌垣）　三　台
旗（京都染吳服商組合）
組合員徒歩（朝服姿）　二十八人
附添人自動車（上七軒）

十四番　平安朝時代屋台（やすらい花踊）　三　台
旗（京都關東織物卸商業組合）
組合員徒歩（水干姿）　二十人
附添人自動車（先斗町）

十五番　鎌倉時代屋台（女房ノ物詣）　三　台
旗（京都繒綿商組合、京都濱縮緬商組合、京都生絹同盟會、丹後縮緬工業組合）
組合員徒歩（直垂姿）　三十人
附添人自動車（宮川町）

十六番　室町時代屋台（諸職ノ婦女）　二　台
旗（西陣織物商組合）
組合員徒歩（素襖姿）　三十一人
附添人自動車（北新地）

十七番　桃山時代屋台（醍醐ノ花見）　三　台
旗（日本染織物見本市協會、京都羊襟商組合、京都刺繍同業組合、京都木綿商京盛會、京都蠶糸商同業組合、京都洋反物商組合）
組合員徒歩（肩衣姿）　三十六人
附添人自動車（祇園甲部）

十八番　江戸時代初期屋台（小町踊）　三　台
旗（京都染物同業組合）
組合員徒歩（羽織袴姿）　八十二人
附添人自動車（祇園乙部）

十九番　江戸時代末期屋台（京女ノ晴着姿）　三　台
旗（西陣織物同業組合、西陣着尺織物工業組合）
組合員徒歩（織柄姿）　百五十人
附添人自動車（中書島）
救護班自動車
祭事委員自動車

二十番　協賛團體行列

二十二番　四條繁榮商業組合
花園（少女二十名ガ春ノ草花ニ紛裝シ馬車十台ニ分乘シ男十二名ガ蜜蜂ニ女十名ガ蝶ニ紛裝）

二十三番　京都廣告協會
シンデリア姫（女優一名ハ「シンデリア姫」ニ一名ハ侍女ニ紛裝シ十五頭立ノ儀裝馬車ニ乘用馭者十名警備隊十五名）

二十一番

染織祭時代行列所役

四月五日

十一年



染織講社

1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭時代行列

上古時代（橿原神宮参進の織女）

（高原）

青竹小青栗野西高西北鷲栗切小栗鷲

（上七軒）

木山澤木山村村橋村係尾山川野谷尾　　松万里吉富梅雛富菊小千富若久花春

千　代　な

次雛雛松次次代菊妙松丸子代駒郎子吉

奈良朝時代 歌垣

（先中町）

多元山川務村松田朝岩出吉竹出奥川高出吉濱　　本村吉井井中田本豊田村蘇　村谷宮田田

布かぶ玉小梅菊鶴小富き小秀勝か玉梅三玉秀

づみ　千　ぬ　なづき　田

福子子鶴代三榮子代妙代鶴勇郎代菊菊子妙

平安朝時代 やすらい花踊

（北新地東部）

母平高石西中榮高高泉枯塩彩中米大蘇大大住橋加鼓

美　木　　木梗久

加田初鶴係初係政初　冨田冨井田春原延西段　幼秀

ちゃ市亜雛華石清清い文未近い文と榮雛幸辛久あ睦

か　ろ　く　め　い

江子丸寿鶴次妙次江子子子子三子子代香江江子子

錦倉時代 女房の物語

（宮川町）

供女供女供女

桃山時代
醍醐の花見
（祇園甲部）

北政所　安
淀君　中
東の御方　貴
松の丸　北
初音の局　ね
三の丸　ね
揚羽蝶　玉

川西田村上本口柳庇
村村川村本本谷本岡本勝中
田村村川村本本谷本岡本勝中

久　小時鶴たひ小久美里と千種千と里と美久小ひ小久
稲里三　寄宿
久美香く菊め代福島鶴代め菊く香美久
照を千　ね　登　千　榮ら代寄宿
鶴　子代榮子を深福島鶴代め菊く香美子

江戸時代
小町踊
（祇園乙部）

踊子　田上谷
地方　岡磯織織岡
　　小野
　　宮谷齊
　　太中宮
　　西北吉

江戸時代末期
京女の晴着姿
（伏見中書島）

公家　山
姫　宮
里方侍女　平
白無垢姿　田
お仙　田
武家　岸
奥方　橋田
姉娘　野
妹娘　中
里方侍女　久
白無垢姿　照
町家　千
娘　代
侍娘　歌
妹娘　七
下女　五
下女　子
宮　市
那　恩寺
田　口瀬
春光初若　一
子子子駒龍

歌垣唱歌

綾羅錦繍とりどりに
桃とくさめの装いて
その面影を今ここに
ひらくれへす花の神
桜となびく歓や
滝滝然

やすらい花踊唱歌

都の北の紫野
今宮神社
今宮の
御祭
そよそよ
みくらの
だんだん
命とばいちょうに千代かぎりなき
万代かぎりなき
千代かぎりなき
万代かぎりなき
万代かぎりなき
千代かぎりなき
万代かぎりなき
千代かぎりなき
万代かぎりなき
千

昭和十二年

1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭式次第

第一日ノ儀　四月十日

午後一時祭主以下參列者著席
次　齋主齋員著席
次　修祓
次　降神　嘗掻　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後十一時昇神

第二日ノ儀　四月十一日

午前九時祭主以下參列者著席
次　齋主齋員著席
次　修祓
次　降神　嘗掻　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　諸員退下
午後十時昇神

◆染織祭行列順序（昭和十二年四月十一日）

一、午後一時迄ニ京都府廳前ニ集合

一、道　筋　午後一時三十分京都府廳前出發……下立賣通リヲ烏丸ヘ　烏丸通リヲ……四條ヘ　四條通リヲ……河原町ヘ　河原町通リヲ……二條ヘ　二條通リヲ……應天門通リ祭場ヘ

一、行　列

染織祭旗

業　人

一番　祭事委員自動車　（楫江委員）

二番　幣物自動車

三番　齋員自動車

四番　祭主（京都市長）自動車

五番　京都府知事自動車

六番　京都市長（代理）自動車

七番　京都商工會議所會頭自動車

八番　染織講社理事長自動車

九番　祭事委員長自動車

十番　常任理事自動車　（長谷川理事）

十一番　祭事委員自動車　（山川、矢守、備委員）

二列

十二番　江戸時代末期旗
江戸時代末期屋台（京女ノ晴着姿）　三台
旗（西陣織物同業組合、西陣着尺織物工業組合）
組合員徒歩（織裃姿）　百五十人
附添人自動車（中書島）

十三番　江戸時代初期旗
江戸時代初期屋台（小町踊）　三台
旗（京都染物同業組合）
組合員徒歩（羽織袴姿）　七十人
附添人自動車（祇園乙部）

十四番　桃山時代旗
桃山時代屋台（槿槲ノ花見）　三台
旗（日本染織物見本市協會、京都織物卸問屋同業組合（牛糸部 綿織物部）、京都刺繍同業組合、京都富糸商同業組合、京都洋反物商組合）
組合員徒歩（肩衣姿）　三十六人
附添人自動車（祇園甲部）

十五番　室町時代旗
室町時代屋台（諸職ノ婦女）　二台
旗（京都織物卸問屋同業組合（西陣織物部））
組合員徒歩（素襖姿）　三十一人
附添人自動車（北新地）

十六番　鎌倉時代旗
鎌倉時代屋台（女房ノ物詣）　三台
旗（京都織物卸問屋同業組合（白生地部））
組合員徒歩（直垂姿）　三十人
附添人自動車（宮川町）

平安朝時代旗

十七番　平安朝時代屋台（やすらい花踊）　三台
旗（京都關東織物卸商業組合）
組合員徒歩（水干姿）　二十人
附添人自動車（先斗町）

奈良朝時代旗

十八番　奈良朝時代屋台（歌垣）　三台
旗（京都織物卸問屋同業組合（染呉服部））
組合員徒歩（朝服姿）　二十八人
附添人自動車（上七軒）

上古時代旗

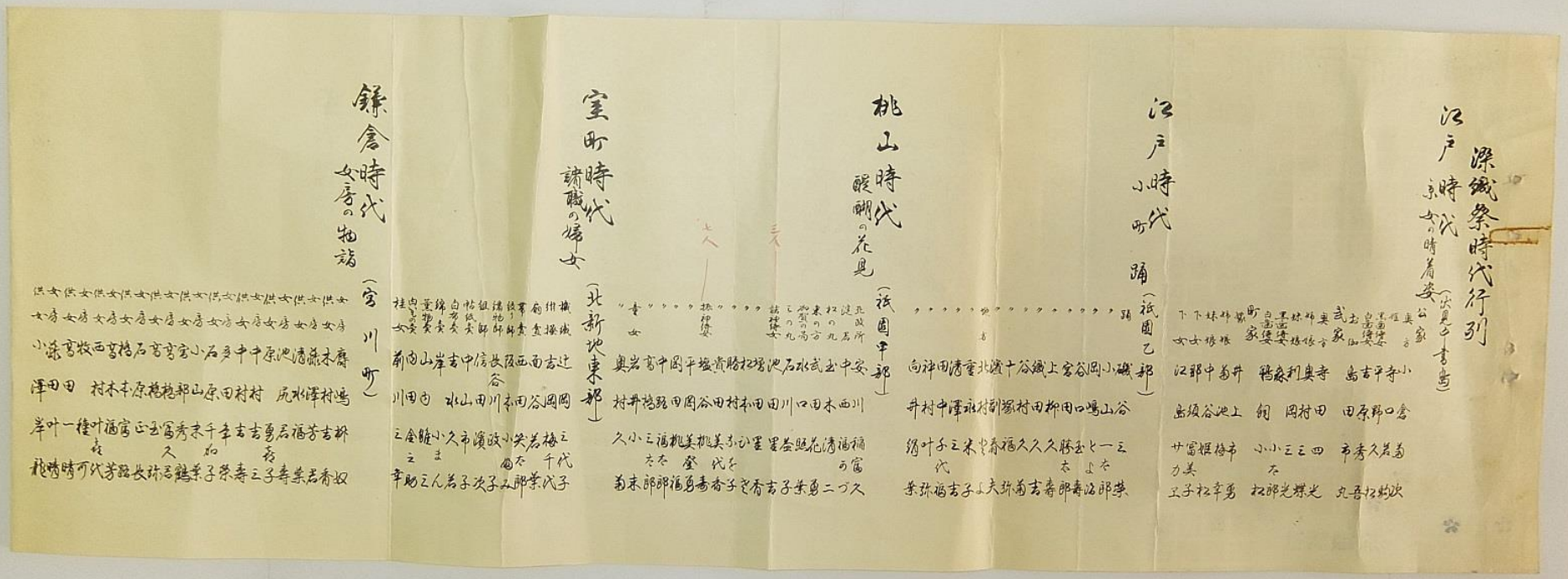
十九番　上古時代屋台（機殿參進ノ織女）　三台
旗（京染呉服悉皆同業組合）
組合員徒歩（摺衣姿）　三十人
附添人自動車（島原）

二十番　救護班自動車

二十一番　祭事委員自動車　（關、園部）



1-1　染織祭記録　　昭和6年


源氏祭時代行列
江戸時代
京女の時着姿（宮川町）
江戸時代
小唄踊（祇園乙部）
桃山時代
醍醐の花見（祇園甲部）
室町時代
諸職の婦女（北新地東部）
鎌倉時代
女房の物詣（宮川町）

平安朝時代　やすらい花踊　（先斗町）

踊子　藤本豊栄　伊藤栄子　中西宮光　新谷栄子　伊藤大井　伊藤栄子　中西宮光　伊藤平俊

歌　垣　（上七軒）

雅楽　吉村岩川　新田多元　濱川吉三　出吉竹　伊與伊写　吉

唱歌　田井木村　田中　田村田原　雲田村統　篠谷田　原

鼻　栗本竹西　青青西加　加野和西　是中青小　鷲

（原）

心村山村　木村村川　村村智村　木澤尾

富蜜百　雖和笑　千千若梅　菊万喜吉　寿子

代千三代

代吉龍菊次　福菊和弥　代龍治世　代龍子

奈良朝時代

歌垣　（上七軒）

踊子　藤本豊栄　伊藤栄子　中西宮光　新谷栄子　伊藤大井　伊藤栄子　中西宮光　伊藤平俊

井谷井

篠田田木川川村智村谷川股西村上木田井井澤田原

か千市市日筆春喬光睦千幸幸と光初といと酒婦紫

づ弥る12代　く　め　く　し　美

以代光子次子子子子子子子子子子子子子子子子子

上古時代

橲殿参進の織女

（島原）

織殿の　織女の　奈良の昔の　歌垣の

上衣に　通ふ者ろ　風

うたひつ舞いつ　祝ぐなり

歌垣唱歌

綾羅錦繍とりどりに　都大路と　人の装ひて

その面影を　偲ぶらく

ひらくめすすきの神殿となびく　欽明拝して

深く　万歳百歳

やすらい花踊唱歌

都の北の　雲野　今宮

富茶の花やよみをそば　みえしの山やあいの

千代千代と　長うもいわう　友禅染こそ

西陣織は　山をなし　海をなし　エーエやすらい

小町踊唱歌

鴨の　磯に　多鳥がふける　何とふけるそ

今宵やよい宵　わが国春宵　値千金とは

都大路に　賑がふける

ほかならぬ　深雪　さすが　美術の大都

十二年

昭和十三年

1-1　染織祭記録　　昭和6年

昭和十三年

染織祭式次第

四月八日　午後一時

午後一時祭主以下參列者着席
次齋主齋員着席
次修祓
次降神　音樂一同起立
次神饌ヲ供ス　此間奏樂
次幣物ヲ供ス
次齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次染織講社會長祭詞ヲ奏ス　一同起立
次齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次齋員拜禮
次染織講社會長玉串ヲ奉リテ拜禮
次京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次昇神
次諸員退下

時代衣裳行列ハ日文字ノ関係上見合セ
リ

昭和十四年

又即事変ノ為時代衣裳行列中止

染織祭式次第

四月八日　午前十時

午前十時祭主以下參列者著席
次　齋主齋員著席
次　修祓
次　降神管掻　一同起立
次　神饌ヲ供ス　此間奏樂
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次　神饌ヲ撤ス　此間奏樂
次　昇神管掻　一同起立
次　諸員退下

1-1　染織祭記録　昭和6年

四月八、九、両日大礼記念京都美術館ニ於テ
猪飼嘯谷氏伯耀毛ニ染織講社所蔵ノ
八時代婦人風俗衣及八時代男装衣ノ展
覧会ヲ開催

染織雑誌

昭和十五年

染織祭式次第

四月七日　午前十時

午前十時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修　祓　　一同起立
次　降　神　　菅掫　此間奏樂
次　神饌ヲ供ス
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮　此間奏樂
次　神饌ヲ撤ス
次　昇　神
次　諸員退下

時代行列ハ本年ヨリ中止ス

本年ハ講社創立十周年ニ当リ付講社員及関係者其他来賓ニ左記記念品及記念写真ヲ贈呈セリ

仰人及講員来賓ニ対シテハ大宗長朝時代女神像入掛額一面ヲ贈呈セリ

団体講社ニ対シテハ右額ト外団体長ニ置時計一個ヲ贈呈セリ

講社事業ニ対シ年来援助ヲ受ケシ方面ニ諸手ノ如キ記念品ヲ贈呈セリ

講社役員及関係者ニ対シテハ記念品又ハ記念品料ノ如ク贈呈セリ

十月五日ヨリ十月廿二日迄東都帝室技芸員ト倶ニ日本文化ト宣布ノ為メ満洲ニ於テ講社ニ於テハ之ニ祝賀シ上ヲヲ江戸木彫ニ名人時代行列衣裳及附属品一式ヲ東都美術館ニ展示セリ

染織講社

染織講社

昭和十六年

染織祭式次第

四月十二日　午前十時

午前十時祭主以下參列者着席
次　齋主齋員着席
次　修祓　　一同起立
次　降神　　一同起立　此間奏樂
次　神饌ヲ供ス
次　幣物ヲ供ス
次　齋主祝詞ヲ奏ス　　一同起立
次　祭主祭詞ヲ奏ス　　一同起立
次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮　代理 内務部長
次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮　代理 助役
次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮　代理 副會頭
次　染職講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮　代理 副社長
次　染織講社評議員代表玉串ヲ奉リテ拜禮　代理 副社長
次　式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮　代理 庶務部長
次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮　代理 庶務部長
次　來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次　參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮　奉納　此間奏樂
次　平安朝やすらい踊
次　神饌ヲ撤ス　　一同起立
次　昇神
次　諸員退下

1-1　染織祭記録　　昭和6年

やすらゐ花踊登場

ことしの染織祭に

[illegible]の祖神を祀る[illegible]祭は廿二日午前十時から岡崎公會堂[illegible]の[illegible]殿で執行されることになつた

[illegible]が[illegible]修[illegible]祭[illegible]祭[illegible]は中止されて[illegible]年は特に[illegible]年四十時から[illegible]の[illegible]

やすらゐ踊が奉納されることになつた

この[illegible]は今[illegible]のやすらゐ[illegible]になつたものゝ[illegible]、[illegible]、[illegible]等によりみやびやかに[illegible]れるものゝ[illegible]町[illegible]と[illegible]者の人[illegible]を急いでゐる

祇園（ナヘガタ）

やまるまで

やらへむ

やこゆ

や

御安産やすらい花踊唱歌

都（ミヤコ）の北の紫野（ムラサキノ）　今宮まうでの花盛（ハナヅカ）
エイエ　やすらい花や
富栄（トミサカ）の花やこみをせば　みくらの山にあまるまで
エイエ　やすらい花や
命（イノチ）をこはば　ちよに千代（ヨロヅヨ）までも長らへむ
エイエ　やすらい花や
西陣織（オリ）は山をなし　友禅（イウゼンゾメ）深は海をこゆ
エイエ　やすらい花や

講社員待遇方法

一、四月七日擧行の式典には御案内致します（特別參列席ヲ設ク）

一、式典參列の方には御供物を分配致します

一、式典參列の方には折詰壜酒を呈します

一、四月八日染織祭行列特別觀覽券三葉呈します（特別觀覽席ヲ設ク）

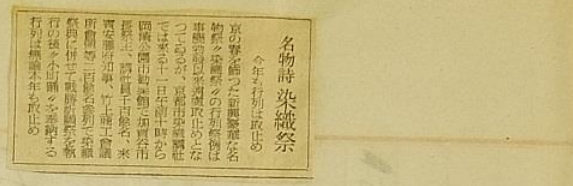
以上

昭和十七年

染織祭式次第

四月十一日　午前十時

午前十時祭主以下參列者着席
次齋主齋員着席
次修祓
次降神　管絃　一同起立
次神饌ヲ供ス　此間奏樂
次幣物ヲ供ス
次齋主祝詞ヲ奏ス　一同起立
次祭主祭詞ヲ奏ス　一同起立
次齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次齋員拜禮
次祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次式典委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次來賓玉串ヲ奉リテ拜禮
次參加各團體代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次小町踊奉納　此間奏樂
次神饌ヲ撤ス
次幣物ヲ撤ス　管絃　一同起立
次昇神
次諸員退下



名物詩 染織祭

今年より行列は取止め

京の春を飾つた前衛繁盛な名物祭々染織祭々の行列が今年は車輛の都合以来遂に取止めとなつてゐるが、京都市染織組合では来る十一日午前十時から岡崎公園内勧業館で開会市長挨拶、諸官員千百餘名、来賓安藤府知事、竹上商工會議所會頭等二百餘名參列で染織祭典に移せて戦勝記念祭を執行の後ち小山觀々を散策する行列は横断本年も取止め

小町踊唱歌

鴨の磧に千鳥がふける
　何とふけるぞ立ちよつてきけば
今年やよい年わが國繁昌
　染と織とは大繁昌
都大路に雀がふける
　何とふけるぞその聲きけば
ほかちや見られぬ染織まつり
　さすが美術の大京都

昭和十八年

染織祭式次第

四月十七日　午前十時

午前十時祭主以下參列者着席

次　齋主齋員着席

次　修祓

次　降神　　管絃　一同起立

次　神饌ヲ供ス　　此間奏樂

次　幣物ヲ供ス

次　齋主祝詞ヲ奏ス　　一同起立

次　祭主祭詞ヲ奏ス　　一同起立

次　齋主玉串ヲ奉リテ拜禮

次　齋員拜禮

次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮

次　京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮

次　京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮

次　京都商工會議所會頭玉串ヲ奉リテ拜禮

次　染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮

次　祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮

次　來賓代表者玉串ヲ奉リテ拜禮

次　團體講社員玉串ヲ奉リテ拜禮

次　やすらい花踊奉納

次　幣物ヲ撤ス　　此間奏樂

次　神饌ヲ撤ス　　管絃　一同起立

次　昇神

次　諸員退下

（西京一二三）

深緑染ぬらい花踊唱歌

都の北の紫野今宮あたりの花姿

エイエ　やすらい花や

富草の花やとみをせばみくらの山にあまるまで

エイエ　やすらい花や

命をこばくちぬに千代幾代までも長らへむ

エイエ　やすらい花や

西陣孤山を辞し友禅流を海をこゆ

エイエ　やすらい花や

昭和十九年分

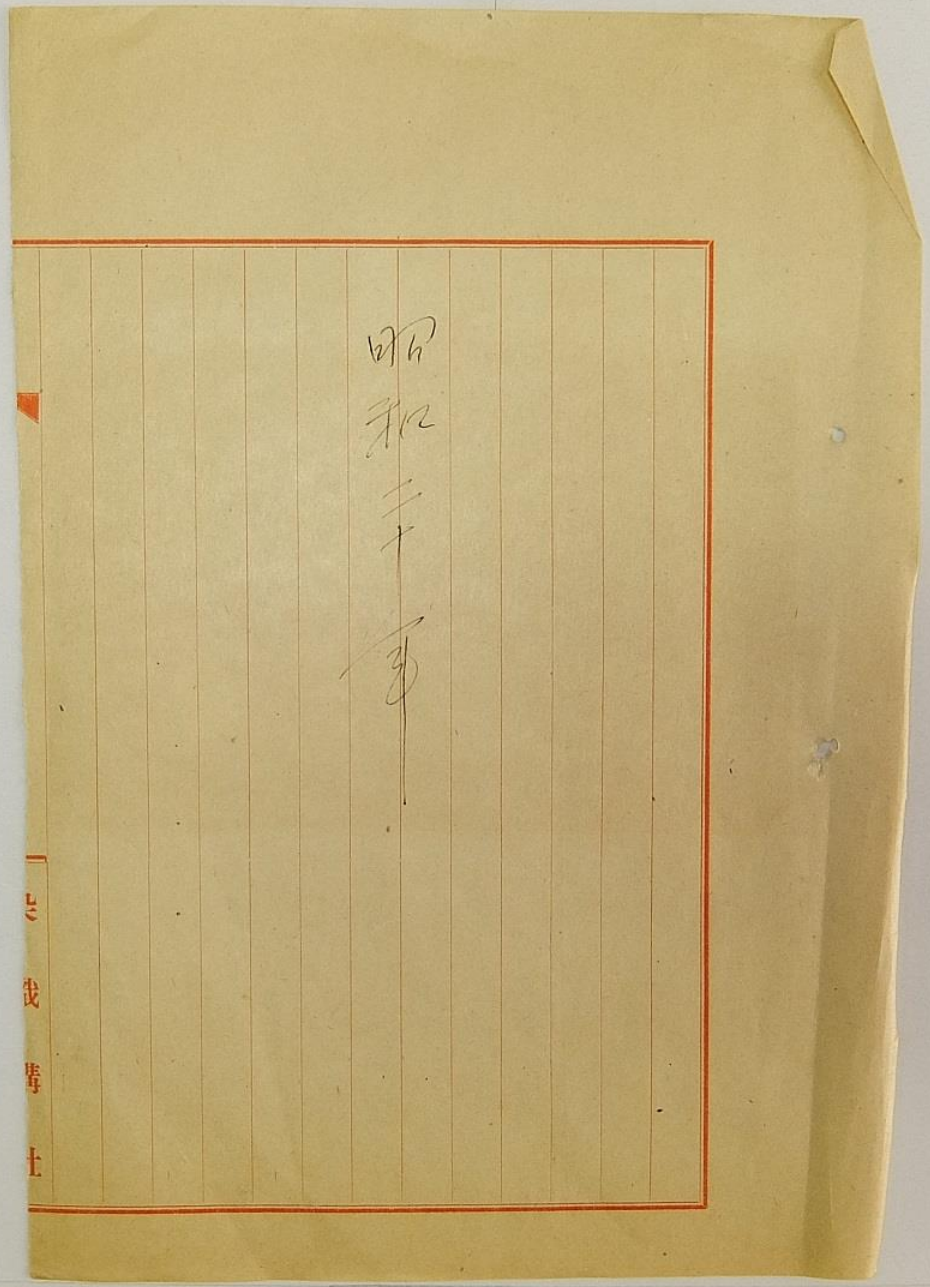
1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭式次第

四月十七日　午前十時（時間勵行）

午前十時祭主以下參列者着席
次 齋主齋員着席
次 修祓　　管絃一同起立
次 降神　　此間奏樂
次 神饌ヲ供ス
次 幣物ヲ供ス
次 齋主祝詞ヲ奏ス　　一同起立
次 祭主祭詞ヲ奏ス　　一同起立
次 齋主玉串ヲ奉リテ拜禮
次 齋員拜禮
次 祭主玉串ヲ奉リテ拜禮
次 京都府知事玉串ヲ奉リテ拜禮
次 京都市長玉串ヲ奉リテ拜禮
次 京都府商工經濟會頭玉串ヲ奉リテ拜禮
次 染織講社理事長玉串ヲ奉リテ拜禮
次 祭事委員長玉串ヲ奉リテ拜禮
次 來賓代表者玉串ヲ奉リテ拜禮
次 團體講社員代表玉串ヲ奉リテ拜禮
次 幣物ヲ撤ス
次 神饌ヲ撤ス　　此間奏樂
次 昇神　　管絃一同起立
次 諸員退下

1-1　染織祭記録　　昭和6年



1-1　染織祭記録　　昭和6年

染織祭式次第

四日九日　午前十時三十分（時間勤行）

午前十時二十分祭主以下參列者着席

次　齋主齋員着席

次　修祓

次　降神　　管絃　一同起立

次　神饌ヲ供ス　　此間奏樂

次　幣帛ヲ供ス

次　奉王祝詞ヲ奏ス　　一同起立

次　齋王玉串ヲ奉リテ拜禮

次　齋員拜禮

次　祭主玉串ヲ奉リテ拜禮

次　幣帛ヲ撤ス

次　神饌ヲ撤ス　　此間奏樂

次　昇神　　管絃　一同起立

次　諸員退下